

家庭教育支援チーム進捗状況について（令和4年4月1日現在）

1 目的

不登校児童生徒とその保護者を対象とし、民生・児童委員が学校と緊密に連携・協力しながら学校とは異なる立場による日常的な支援活動を行うことで、保護者の子育てに対する不安感や負担感を解消するとともに、家庭や子どもたちの孤立化を防ぐことを目的とする。

2 令和3年度取組結果

各学校・地域により、学校と民生・児童委員との関係性の強弱に差異があることから、各学校・地域を個別に訪問したうえで、関係性の構築・強化、仕組みの理解促進を中心とした取組を実施した。

また、学校の把握する具体案件に積極的に関与し、民生・児童委員の紹介や連絡体制の再確認などを通じ、学校と民生・児童委員との協力関係をより確実にするとともに、円滑な連携がしやすい環境の整備に努めた。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、緊急事態宣言が発令されていた（令和3年4月～6月・7月～9月）こと及び、区立小中学校における学級閉鎖・学年閉鎖等が多発していた（令和4年1月～3月）ことを受け、学校訪問を中断していた期間があったため、拡充スケジュールに遅れが生じているが、令和4年度中には区内全区立小中学校での拡充を完了させる。

○民生・児童委員への協力依頼

- ▶ 7月期会長協議会、各地区民生・児童委員協議会
- ▶ 10月 下赤塚地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 10月 仲町地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 10月 熊野地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 11月 徳丸地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 1月 成増地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 3月期会長協議会、各地区民生・児童委員協議会

○各学校の状況把握・理解促進（18小学校・5中学校で実施）

- ▶ 熊野地区：板橋第五小学校・板橋第七小学校
- ▶ 仲宿地区：板橋第一小学校・中根橋小学校・加賀小学校
- ▶ 大谷口地区：板橋第十小学校
- ▶ 下赤塚地区：赤塚新町小学校・下赤塚小学校・赤塚第三中学校
- ▶ 成増地区：赤塚小学校・成増小学校・成増ヶ丘小学校・三園小学校・赤塚第二中学校
- ▶ 徳丸地区：紅梅小学校・北野小学校・徳丸小学校・赤塚第一中学校
- ▶ 高島平地区：高島第二小学校・高島第三小学校・高島第六小学校・高島第二中学校・高島第三中学校

○顔合わせ会の実施（10 小学校・4 中学校で実施）

- ▶熊 野地区：板橋第七小学校
- ▶桜 川地区：桜川小学校
- ▶下赤塚地区：下赤塚小学校・赤塚第三中学校
- ▶徳 丸地区：紅梅小学校・北野小学校・徳丸小学校・赤塚第一中学校
- ▶高島平地区：高島第一小学校・高島第二小学校・高島第三小学校・高島第五小学校・高島第一中学校・高島第二中学校

○家庭教育支援チーム運営研究会（オンライン）の開催

- ▶新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、講義動画を板橋区ホームページ上に掲載し、参集せずとも自身の都合に合わせて視聴できる方法により開催した。

対 象：板橋区内で活動する全ての民生・児童委員

講 師：福岡県福岡市こども総合相談センター 三村 吉郎 氏

講義内容：①自己紹介（約 7 分）

②家庭を訪問するにあたっての心構え（約 19 分）

③注意点や活動事例（約 19 分）

④より効果的な傾聴の姿勢・声掛けの方法（約 18 分）

掲載期間：令和 4 年 3 月 9 日～5 月 8 日

○活動実態の把握（一例）

<ケース①> 見守り支援

- ▶学校が生徒の校外における様子の情報を民生・児童委員と共有し、民生・児童委員による地域での見守りを実施した。

生徒の様子	放課後や休日に公園を占領し、他の子どもたちが遊べずに迷惑が掛かっていたり、大きな声で騒いでいたりする。
支援内容	地域の民生・児童委員で情報を共有し、対応が可能な方が自身の都合に合わせて公園を見回り、必要に応じて声を掛けることを継続的に実施した。
結 果	引き続き見守り活動を実施し、必要に応じて学校に報告していくこととした。

<ケース②> 登校後の寄り添い支援

- ▶学校が心配な生徒の情報を民生・児童委員と共有し、民生・児童委員による登校後の別室での寄り添い支援を実施した。

本人の様子	友人関係をめぐる課題があることから教室に入ることができず別室登校をしていた。
支援内容	別室において生徒の話を傾聴し、課題の取組を見守り、給食と一緒に食べるなど、寄り添い支援を実施した。
結 果	本人の話を傾聴し、進路に関する不安な気持ちが和らぐよう寄り添い支援を継続した。高校進学の意味があり、無事に進学校が決定し、高校生活への希望を語り卒業したため、支援を終了した。

<ケース③> 朝の声掛け・寄り添い・登校支援

▶学校が心配な児童の情報を民生・児童委員と共有し、家庭の意向を確認したうえで、朝の声掛け・寄り添い・登校支援を実施した。

家庭・本人の様子	新型コロナウイルス感染症の影響により、生活リズムが崩れ登校を渋るようになった。朝の声掛けをすると通常の時間に登校できる可能性がある。
支援内容	通常の時間に登校できるよう自宅に訪問のうえ声を掛け、登校支援を実施した。登校支援は、一人で登校することを見据え、教室まで、昇降口まで、正門までと徐々に同行する距離を短縮していった。
結 果	支援を継続した結果、登校を渋り気味であった状態が改善し、登校のリズムを整えることができた。 また、民生・児童委員と明るい表情でコミュニケーションがとれるようになった。 ゴールデンウィーク明けまで支援を継続し、一人で登校できるようになったため、支援を終了した。

<ケース④> 朝の声掛け・寄り添い・送り出し

▶学校が心配な児童の情報を民生・児童委員と共有し、家庭の意向を確認したうえで、朝の声掛け・寄り添い・送り出しを実施した。

家庭・本人の様子	父子家庭で父親が朝早く出かけるため、本人は寝過ごしてしまう様子である。直近3ヶ月の登校状況は、2日程度しか通常の時間に登校ができておらず、遅刻することが多い。朝の声掛けをすると通常の時間に登校できる可能性がある。6年生であり中学生まで残り数ヶ月という時期であったため、登校するリズムを整えたいとのことであった。
支援内容	2学期中は8時、3学期の途中から7時45分に訪問のうえ声を掛け、30分後に再度様子を伺い、送り出しを見届け、その結果をその都度学校へ連絡した。
結 果	支援を継続した結果、遅刻気味であった登校時間も徐々に早まったことに加え、友人・家庭・学校・自身のことなど様々な話をしてくれるようになり、登校のリズムを取り戻しつつ前向きな姿勢が見られるようになった。 中学校の入学式には元気に登校し、ゴールデンウィーク明けも頑張って登校している様子であったため、支援を終了した。

3 拡充スケジュール（令和4年4月1日現在）

年 度	理解促進	顔合わせ会
令和元年度（平成31年度）	16 小学校・4 中学校	0 小学校・1 中学校
令和2年度	14 小学校・9 中学校	24 小学校・9 中学校
令和3年度	18 小学校・5 中学校	10 小学校・4 中学校
令和4年度（予定）	3 小学校・4 中学校	14 小学校・6 中学校
全 校 数	51 小学校・22 中学校	48 小学校・20 中学校（※）

※日頃から民生・児童委員との情報共有が活発に行われている学校は、改めての顔合わせ会は実施せず

4 令和4年度取組予定

○拡充の完了

▶令和4年度中に、区内全小中学校における状況把握・理解促進及び顔合わせ会を完了させる。（4月～12月）

○アウトリーチの実現

▶顔合わせ会実施後、学校と民生・児童委員との連携体制について活動記録を基に確認したうえで、不登校対策への寄与について把握する。（年間）

▶円滑な連携体制が確立されていない学校については、問題点を整理しアウトリーチの実現につなげていく。（年間）

○家庭教育支援チームの認知度向上及び理解促進

▶家庭教育支援チームの仕組みや活動事例について取りまとめたものを学校や民生・児童委員等に対し周知することで、家庭教育支援チームの認知度向上及び理解促進を図っていく。（年間）

※7月：教育委員会・全体校長会

※7月：民生・児童委員協議会会長協議会、各地区民生・児童委員協議会

○家庭教育支援チーム運営研究会の開催

▶実績を検証したうえでテーマ等を決定し、家庭教育支援チームの運営に携わる民生・児童委員を対象とした講習会を開催する。（3月）

※3月：民生・児童委員協議会会長協議会、各地区民生・児童委員協議会